

# はばたき21

## 通信

2011.3  
No.21

気づいたときに始めよう

農業への思いをみなちに



男の料理教室 作る喜び発見!



医療現場の笑顔に憧れ?



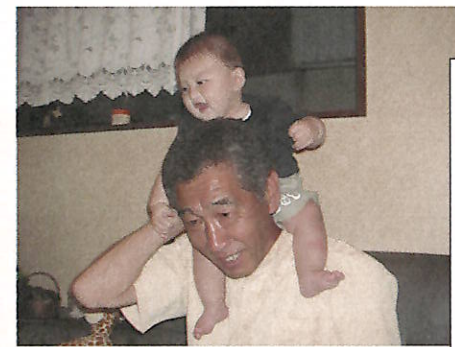
女みこしも粋な下町



やったことの無いことに挑戦!



おじいちゃんの育児デビュー



40代で始めた大人の趣味

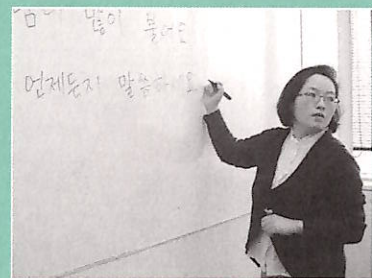


特集

「わたしたち 始めました こんなこと」  
最初のきっかけは? そして いま思っていること  
はばたき21インタビュー  
有限会社YPP 五味渕のり子さん

## 地域のチカラ講座って？

区民の方が自ら企画し、講師となって「はばたき21」台東区立男女平等推進プラザと協働で実施する講座です。



あなたが、みんなに伝えたいことや「こんなことがやれたらいいな」と思うことを応援するのが

## 地・域・の・チ・カ・ラ

22年度は、今回ご紹介した木下秀子さんだけでなく、『女性の視点でめぐる谷中のまち』『鉛筆で描く自画像』『男性料理教室』など、様々な講座が開催されました。『韓国語講座』のように実施後に継続して楽しく活動しているグループもあります。年1回生涯学習センター4階「はばたき21」で募集がありますので、あなたもチャレンジしてみませんか！あなたの“始めてみたい”気持ちを応援します！



皆さんお店に来て下さい！お待ちしております。



## 木下 秀子さん

(きのした ひでこ)

ドイツ歌手「Roy Black (ロイ・ブラック)」を好きになったことをきっかけにドイツ留学。ドイツの女性たちとの交流を始める。



## Q きっかけは？

母を亡くした年に、偶然知った歌手があまりにも素敵で衝撃を受けました。友人には「お母さんが引き合せてくれたのね」と言われています。

日本でドイツのポップスについてほとんど情報がありませんでした。ならば、私が発信すればいいと思いドイツ語を学び始めました。その後ドイツに語学留学し、ファンの方たちと交流するなかで、ドイツの様々な女性たちの生き方、戦後 Roy Black が歌っていた時代について知ることが出来ました。

ドイツの女性達が、「Roy Black が日本女性と出会わせてくれた」と言っています。

日本でも仲間が出来ないかと「はばたき21」の地域のチカラ講座を企画したり、FMでお話させてもらったり、少しずつ広がりを感じています。素敵な歌手と彼の歌をもっと多くの人に紹介するために執筆をはじめました。これからは、日本女性と外国の女性が身近な事で交流できる時代です。

## 「学生の八百屋 SUN」

入谷にある大学生が経営する八百屋さん。  
2010年4月26日 農業サークル SOLA  
の有志メンバー6人でスタート。現在の中心メンバーは3人。



## Q きっかけは？

「新規に就農しても、買い手を見つけるのが難しくて行き詰る。そういう方々を支援したい」「販売を通して中山間地域(\*)の農家の方々を応援したい」と始めました。

\*中山間地域……都市や平地以外の中間地域と山間農業地域の総称。主に農業分野で使用される用語。

ご近所の方からは珍しがられて、「活気が出た」と言っているみたいです。でも、毎日利用していただくため、工夫のしようはまだあると思っています。

オープンしてすぐ、入谷カフェのオーナーさんが来てくれて、「何か一緒にできるといいね」と誘ってくださって。11月から毎週土日は入谷カフェに出店しています。お客さんも違うので、大変勉強になっています。

## 外山 節子さん

(とやま みさこ)

小学校の特別支援学級の支援員。  
教育上特別な支援が必要な子どもたちの日常生活の介助や学習活動のサポートを行っている。



## Q きっかけは？

それまでの仕事を辞めて何か出来ないかなと思っていた時に、広報で①健康で②子どもが好きな人、という募集内容を見て応募しました。

子育ての経験もなく、教員や学校にも縁遠かった私が、最初に担当したのは1年生でした。最初はできないことがいっぱいなのに、だんだんに皆と一緒にできることが増えていく“成長”を目の当たりにしました。「一緒に見守っていると、子どももこたえてくれるよ」という先生の言葉は今でも心に残っています。

教員資格のある人、私のように教員資格がなくて始めた人、教員を目指す学生さんなど、いろいろな方たちと一緒に子どもと関わるこの仕事をきっかけに、教育に関心を持ち始めました。ゆっくりしたペースですが、資格をとる勉強を始めているところです。

ハーブはレモングラス、  
コモンセイジ、ミント、  
フェネル…15、6種類あります。



## 藤田 関我さん

(ふじた ときお)

墨田区にある東白鬚公園の公園ボランティアとして、花壇の手入れを行っている。



## Q きっかけは？

東白鬚公園へ花の写真の撮りに行ったところ、一緒に花壇の手入れをしないかと声を掛けられて。

毎日、自宅から公園まで自転車で通っています。坂の登り降りもあるし、身体を動かすので悪かった腰や膝が良くなりました。ハーブを使ったお茶や料理は胃腸にもいいし、毎日健康に過ごしています。春になると、ハーブのほかにたくさんの花が咲きます。1年を通じて様々な花が楽しめますのでぜひ見に来てください。

## わたしたち

## 始めました こんなこと

今まで考えていたこと、ふと目についたこと、誘われてつい…ちょっとした「きっかけ」のその先にあるものは…

## galleriaACCa ガレリア・アッカ

細川 信子さん

(ほそかわ のぶこ)

それまで携わってきた雑誌制作の仕事辞め、5年前にご夫婦で下谷にギャラリーを始める。



## Q きっかけは？

人生の終わり1/3は若い人を応援するために使いたいと考えてきました。趣味で夫は絵を、私は陶芸をやってきましたので、こうしたことの中で何か出来ることがあるのではないかと考え、夫も退職してギャラリーを始めました。

今、不況でギャラリーが次々と閉店しています。若い作家さんの発表の機会が少なくなっているのですね。そんな中で、少しでも若い作家さんの力になれば…と考えています。

出版の仕事は医学関係の専門書だったので、業務として内容にまで関われなかった。この仕事は自分たちも関心があって、楽しめます。若い作家さんは今が成長の時。意欲があって、いろいろとお話することも楽しいです。ここで個展をされた作家さんが、それをきっかけに他でも個展をされたりして成長していくのを見るのは、とてもうれしいです。いろいろな世界をもつ、沢山の方と知り合いになれば、自分たちの世界も広がっていただけました。みんなに「やったら」と勧めたいくらい。

女性の作家さんの作品を多く取り上げているのは、女性の方が个性的で、自由な発想の作家さんが多いからだと思っています。また、女性を応援したくて、作品が同じくらいのレベルの方でしたら、無意識のうちに女性を選んでしまっているかもしれません。出版の仕事では、男女平等が当たり前だったんですが、辞めてみて世の中はまだそうではないことにびっくりしました。それで女性に肩入れしてしまうんですね。

# まずはやってみて、好きになっってみて

子育て中の女性が安心して働ける場所をつくりたい  
新しいワタシを応援する事務代行会社

有限会社YPP 代表 五味渕のり子

仕事をもつ母親が抱える、仕事と子育てのバランスの問題。働きたいけれど、長時間の残業や責任あるポジションに就いて、子どもとの時間を減らしたくないと諦めてしまう人もいます。

仕事もしたいし、他人任せではなく、自分の手で子どもも育てたいと願う女性たちに、もっとバランスのとれた働き方を提供できないかと考えた五味渕のり子さん。辿り着いたのが、一人雇う程ではない事務の代行業でした。

会社経営やご自身の仕事復帰のお話をヒントに、母親が働くというところ、ブランクを経て働き始める際の心構えについてお聞きしました。

## 「一人雇うほどではない事務代行」の始まり

起業する前に、営業研修の講師をしていましたが、代役がきかない職でした。子どもが熱を出しても、約束したら行くしかないのです。経理は人が違っても、処理の結果が変わらない仕事だと思いました。「これを600円の仕訳で通信費であげて」というのは誰が処理しても同じ結果になります。

今は、専門性はあるけれど、資格があるほどではないという事務仕事がたくさんあります。例えば、帳簿つけや、給与計算。キャリアがない人は時間ばかり、ミスも多いけれど、適正のある人は時間内にできます。

一人入れると、企業として繁忙期はいいけれど、閑散期もその人に仕事を探さなければなりません。そこで、仕事を割り当てると、繁忙期に

は仕事が増えてしまします。雇うと、逆に大変な中小零細企業もいっぱいあります。お客様の忙しい時だけ、仕事単位で依頼できるところが、YPPの特徴です。

手探りで進め、お役に立てると思えるようになってきたのが、一人雇う程ではないボリュームのところでした。そこが活躍ゾーンだったのです。

## 迷ったときは原点に戻る

お客様先で帰る直前に「あともう一つ」と用事を頼まれても、定刻のバスに乗れなかったらアウト。保育園へのお迎えはお母さんの悩みの一つです。でも、頼まれたら断れない。お客様は頑張ってくれる人にもっと期待をかけます。応えようとして「やっぱり今の私には無理」と挫折してしまつスタッフもいます。

お客様を大事にしようとすれば、経営者としてスタッフに無理を言い

たくなる自分がある... だけど、迷ったときは原点に戻るよう心がけています。  
YPPは、お母さんたちの働く場を作るために始めたんだということ。

## 夕方、電話に出ない会社って

ほぼ全員乳幼児を抱えた女性ばかりでのスタートでした。子どもの熱が出ると、私も含め、皆早く帰らなくてはならず、「夕方YPPさんに電話かけたら悪いな」とお客様が気を遣ってくださることもありました。

普通の会社では、6時7時に電話するのは当たり前ですが、私たちがなかったりするんです。「お客様に遠慮されてしまつのはどうかと思う」「これではいけないよね」と話し合うこともあります。次から次へと課題があつて、皆で一つ一つ克服しながら、今が百点満点ではないと思つてやっています。

## 独身や男性スタッフも

登録スタッフも様々です。独身の方や、引退されている方など。男性スタッフの中には、定年退職したけれど、まだ自分の能力を活かしたいという方もいます。

今後増えると思つているのは、介護をしながら働く方です。子育ては「大変なのは今だけ」と周りが言ってくれますが、介護は何年続くかわからない。仕事を辞めて働き口がなくな

## 働くタイミングは人それぞれ

お子さんが1、2歳でも保育園にあずけて働く方もいれば、小学校3年生になつてからきた方は、「1、2

なつてしまつと、希望の光が閉ざされてしまつと思ひます。例えば、在宅で週何日の仕事がある、ヘルパーさんに頼める日や空いた時間に仕事ができるなど、お役に立てるといふのは大事なな思ひです。



Profile ごみぶち のりこ

立教大学文学部卒業後、新聞社、ITベンチャー企業に勤務した後、営業コンサルタントとして研修、セミナーの講師を務める。妊娠を機に仕事を辞めて子育てに専念。2005年「有限会社YPP」を設立。経理を始めとする事務代行業を展開。現在、登録スタッフは30代女性を中心に約80名。

歳の頃は働くなんて想像もできなかったと言ひます。働き始める適正年齢は、まちまちです。お子さんが小学校高学年と中学生の方に、「お子さん大丈夫ですか」と聞くと、「もう二人で勝手に料理作つて食べています」ですつて(笑)

## YPP流コミュニケーションのとり方

子育て中のママが働きやすいように工夫しています。

- ✓「おはようメール」を互いに送信  
変化しがちな朝の出勤状況をメールで確認。「おだいじに」の一言に救われるママも。
- ✓引き出しのない机  
書類はキャビネットで共有。ピンチヒッターも安心。
- ✓個別のランチミーティング  
社長とスタッフが社外でランチ。普段話せないことも気楽に相談。
- ✓勉強会&交流会  
勉強会後は皆でランチ。リラックスして素顔を見せ合える。孤独になりがちな在宅勤務者の顔合わせにも活用。

## 仕事、育児、PTA全部あきらめなくてもいい

「何が何でも仕事」と言つ人もいれば、そつでない人もいます。「バランスをとつて働きたい」と言つ女性性は意外と多いと思ひます。子どもの参観日や遠足には行きたいし、役員もやつてみたい。地域の活動にも参加する。だからといって仕事はあきらめなくてもいい。そんなやり方が通る会社があつてもいいのではないかと思ひます。

最初は、「お客様へ迷惑かけたくない」とスタッフの生活を守りたい」を天秤にかけて、どこがベストな地



大人の贅沢を満たす商品のために心血を注いでいる人、もいるのに、少子化の中、働きたいと言う人のために心血を注いで何が悪いのでしょうか。贅沢のレベルが全然違うと思います。働きたい、社会とつながりたいと思うている人が大勢いる一方で、その手で支えられる仕事があるとしたら、これは贅沢ではなく、ニーズだと結論づけてます。

### 出産報告のほずが！

点なのか探り続けて苦しみました。でも、天秤じゃないんだと途中から気がつきました。融合させて探っていくのが使命なんだと。矛盾しているものではなく、あり方の模索という点では、挑戦しがいのあるテーマです。そう思うに至ったのも、子どもが熱を出した時に「口頃、頑張ってくれているからいいよ」と言ってくださる優しいお客様がいらしたリ、弱音を吐かずに頑張ってくれるスタッフがいるからです。本当にたくさんの方の支えで、ゆっくりステップアップして、黒字にするところまでできました。

「子育ての幸せも手に入れて、かつ働きたいなんて贅沢ですね」と言われることがあります。世の中には、

私自身、妊娠を機に半年間、専業主婦をしました。仕事モードから育児を始めたので、頭でっかちでリラックスしていない状態でした。年末、得意先に「無事生まれました」と報告に伺うことにしたんです。母に子どもをあずけ、久しぶりにスーツを着たらパンパンで(笑)、半年ぶりにお化粧をきちんとして、解放感で「わぁー」と思いながら車を運転して

会いに行きました。  
今思うと不思議なのですが、社長の顔を見た瞬間「私、お仕事再開の準備が整いましたのでご挨拶に伺いました」の言葉が。「そういうことなら、またよろしく」とその場でコンサルタントの受注をしてしまったんです。嬉しかったですね。帰りの車で、ごつごつと思いましたが、やっぱり仕事したかったんです。  
場所が違ふんです。赤ちゃんと接して幸せになる部分とは。「ありがと。役に立ったよ」と誰かから言われて、ほめられ筋というか、よこごび細胞みたいなのが10年仕事していると、植わっているんですね。そこが半年間で欠乏症になっていたんです。ビタミンのように足りなくなっていて。いつも母に「手伝ってくれてありがと」と言っばかりで、自分が「ありがと」と言われる場面がたった半年少なくなっただけで、私は耐えられなかったんです。

### 見様見真似で経理の仕事

仕事を再開して、コンサルタントの肩書きでブログを書いたところ、昔の会社の先輩が「偉そうにコンサル名乗っているけど、人を雇ったことも会社やったこともないだろう」と声をかけてきました。まずは通帳

管理を依頼されました。経理は得意ではなかったのですが、見様見真似で、コンサルタントの勉強になると思っ始めたんです。  
やっているうちに、二重請求や、未入金が出てきて、これは大変だと思いました。だんだんコツがつかめてくると、ここに需要があることがわかりました。小さな会社は経理に困っている。

### ロールプレイングゲームの主人公のように進む

その先輩が「うるさいけど助かる奴がいる」と口コミしてくれたおかげで、経理の仕事が次々に来たんです。計画して始めたことではありませんでした。言われて、引き受けて、突き進んで、雇った。敵が出てきて、戦って50ポイント増えた、そんな感じでした。

ファイリングを嬉しそうにやる人がいることや、経理の数字がびったり合う達成感は、営業だけやっていたら気がつきませんでした。実際、会社をやってみて、経理と会社の成長は切り離せないことがよくわかります。その大事な経理ができてなくて、なかなか前に進めない会社もいっぱいあります。

一方、子どもが小さいお母さんは

### 子供たちの未来のために

自然にしていると人間は美しいと思います。その方のあり様が仕事を通してさらに磨かれていく。仕事を通じて日々何かを学び、誰かの役に立っている時間が、子育てにいい影響があればいいなと考えています。

理想は、お母さんが明るくポジティブに仕事すること。トラブルを乗り越えた時に、お母さんが明るい顔をしていれば、子どもも「仕事って楽しそだな」と思います。「今日お客さんにほめられちゃった」と嬉しそうに食卓で報告して「うちのお母さんっていいな」と子どもが思ってくれば最高です。

子どもには「夢をもちなさい」と言いがら、「PTAで役員やらされた」とやりたくないことだらけの中で生活している、やらされ感いっぱいのお母さんもいます。もともと自分でジャッジしたり、自分でという気持ちで生きないため。自分で人生を選んだ、自分でお父さんを選んで結婚した、自分でこの会社を選んで働いた。自分が納得してやっている、意識が自立しているお母さんのものでいいお子さんは育ちます。  
子どもたちの未来のためにも、YPPは働きたいお母さんを応援します。

### 気づいた時が最初の一步

これから来ていただく方には「聞いてないからこれしかやらない」ではなく、お客様がなぜこの作業を頼んでいるのか考えてほしい。失敗を恐れなくてください。うまくいかないうちががあるのは皆同じです。一緒に試行錯誤しましょう。

皆さん、自分の得意分野になると生き生きするんですよ。でも「昔のようには…」と諦めて家にいます。気づいた時に声をかけてください。私たちが仕事を探してきます。

## 理想は明るく

## ポジティブに働くお母さん

経理のスキルを磨いたにも関わらず、責任のある仕事に躊躇してしまい、違う職種についてしまう。締めがあるのと帰りが遅くなるし、振込み日に絶対行かなければならないというのが無理だからです。「本当だったら、活かしたかった」といつ思いつ、お客様をマッチングできるといなと思います。だんだんとおお客様の要望と、それに合う人が見つかってきて今に至っています。

### 失敗から勉強 何でも始めてしまおう

「資格とった方がいいですか」とよく聞かれます。確かに簿記の資格はあるといいと思いますが、仕事が一番鍛えられます。特に現場。お客様ごとに要望が違つし、厳しい面もあります。失敗から勉強するんです。だから、何でも始めてしまった方がいいですね。

### 社会で、もまれることも大事

働き始めてすぐ辞めてしまつお母



その時だけの緊張のせいだということとお互いが知っていたら違つたんです。その人自身が悪い訳でもなんでもありません。だから、最初さえ乗り越えてしまえばいいんです。独身の時と同じように仕事をこなせない自分を「やっぱりもう無理なのかしら」と過小評価してしまつお母さんかもしれません。そうではなく、もう一歩粘ってほしい。そうすればブレイクスルーするんです。



はばたき編集委員と撮影

## 図書の紹介

“ワーク・ライフ・バランス”では男性の子育てにスポットをあてがちです。でも「男の介護」も誰にも身近な生活の場面。うろたえながら、戸惑いながら、老いてひとりでは生きていけない親と一緒に過ごす日々を、時には実用的に、時にはユーモラスに、時には感動的に描いた本を紹介します。



「息子介護  
40息子のぐうたら介護録」  
鈴木宏康  
全国コミュニティライフサポートセンター



「介護笑説  
山姥は、夜走る」  
湯川博士  
朝日新聞出版



「男の介護  
失敗という名のほころび」  
吉田利康  
日本評論社



「満月の夜、  
母を施設に置いて」  
藤川幸之助・詩  
中央法規

これらの本は男女平等推進プラザ情報コーナーで貸出しています。

### 台東区立男女平等推進プラザ はばたき21相談室

……ひとりで悩まないで……  
ご相談ください。  
(相談無料・秘密厳守・1回50分)

予約専用電話

☎03-5246-5819

### こころと生きかたなんでも相談

火・土 10時～16時  
水・木 17時～21時

電話相談・面接相談どちらも可  
(男性は電話相談のみ)

火・土は無料保育が利用可

自分の生き方や人間関係、家族や子育てのこと、配偶者等から暴力を受けていることなどの相談に女性のカウンセラーが応じます。

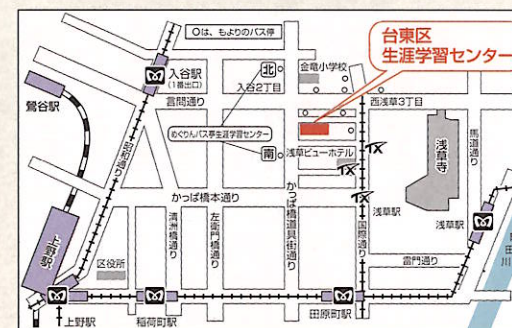
### 女性弁護士による法律相談

第2水曜日 13時～16時  
第3木曜日 10時～13時  
第4火曜日 16時～19時

～ 面接相談のみ ～

離婚や親権、相続などの法律相談に女性の弁護士が応じます。(対象は女性のみ)

**DV 専門電話相談 03-3847-3611** 水曜日 13時30分～16時30分 ≪予約不要・1回30分以内≫  
もしかしてDV…? そう思ったらひとりで悩まずお電話ください!



交通機関 ●JR山手線・京浜東北線「鶯谷駅」南口 徒歩約15分  
●地下鉄 日比谷線「入谷駅」1番出口 徒歩約8分  
銀座線「田原町駅」徒歩約12分

### 「はばたき21」台東区立男女平等推進プラザ

編集・発行 台東区総務部人権・男女共同参画課 男女平等推進プラザ  
〒111-8621 東京都台東区西浅草3-25-16 生涯学習センター4階  
TEL 03-5246-5816 FAX 03-5246-5814

開館時間 午前9時～午後10時

E-mail habataki21@taitocity.net

URL <http://www.city.taito.lg.jp/index/kurashi/jinken/habataki21/index.html>

編集委員 市村・榎本・加藤・鈴木

●つくばエクスプレス「浅草駅」A2出口 徒歩約5分  
●めぐりん「生涯学習センター南」・「生涯学習センター北」共に徒歩3分

#### 編集後記

“気づいたときに始めよう”というテーマで、いろいろな方にお話をお聞きました。本文中に取り上げられなかったけれど、印象に残ったお話をご紹介します。お一人は銭湯で出会ったWさん。一緒に来るお子さんたちは甥御さん、姪御さんでした。子どもは好きではなかったけれど、関わるうちに楽しくなってきたというWさん。たくさん楽しいことをしていきたい、と言われた笑顔が印象的でした。もう一人は特集で取り上げたYPP代表・五味洲さんのお連れ合い。「家のことはちっとも」だったのに、今ではしっかり育児を分担し、お子さんのお友達まで面倒をみてしまうというイクメンぶり。好きじゃなくても、知らなくても、始められる、好きになれる、素敵なエピソードでした。取材にご協力いただいた皆さん、ありがとうございました。



### はばたき21

21号

は公募の区民が  
企画編集しています。  
皆様のご意見、  
ご感想をぜひ  
お寄せ下さい。